WASON
HQ
1104
J74+

Oct. 13
1888
no. 131

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢

版權所有

當府内無郵税

各土曜日出版

明治廿一年　第百參拾壹號　十月十三日發

社説
婦女子修身の覺悟(其二)
論説
選擧人たるには男子たるを要す(光妙寺三郎)○家内經濟の大要(其八)(木村熊二)
批評
君子と淑女○笑而不答○能勢榮君、東京高等女學校改良の説明○實女養女の區別○博士中村正直君、君子と淑女○雜評
叢話
基督教公認の可否○子供を一樣に扱ふべき事○賢夫人、良人を諫む○明治論事矩三段法○百人一首一口話
小説
哲女の卷○小說神髓
佳傳
村好娘、ドラの一生
寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 131. October 13th, 1888.

EDITORIAL:—Woman's Resolutions in Life (No II) Be Pure.
LEADING ARTICLES:—One must be a Man to be an Elector, by Mr. Komiyoji. Principles of Household Economy (No. VIII). by Rev. K. Kimura.
CRITICAL NOTES:—"The Gentleman and the Gentlewoman." "He Laughet and made no Answer." "A Plan for Improving the Girls High School in Tokyo." "The Real and the Adopted Daughters" "The Gentleman and Gentlewoman. by Dr. M. Nakamura."
MISCELLANIES:—"Legal Recognition of Christianity." "Should Children be Treated alike?" "The Discreet Wife."
NOVELS:—"Tetsujo no Maki." "Bouquet of Novels"
BIOGRAPHIES.—Dora, by Tennyson.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾三巻 發兌

蓋し最良の教科書

婦人會員の會話及び內の婦學に適せり

去月廿日出版せり

一冊定價廿錢全國無稅
枚數七十枚頁

●珊瑚の珠　（第八十一回）

○紫式部曰皆人毎にものゝならざる内は人のいさめをもよく入れ道を守るの心あり其望をかなへ得て心のまゝなる時はみなおこりになりて貴をいやしみいやしきをあなどるこのゆへにぞもろ〳〵の佛神の望をかなへかね玉ふあり其望をかなへてあしからしめんよりかなへずして善からしめんは誠に大悲大慈なるべし。

○泉式部曰皆人の我にあひするときは其惡かるとを見ず知ず我にうとき時は善事も知らず惡しき者のいよ〳〵あしかるなりあひすれども其惡を知りにくめどもその善を知るものは人なりとに女の身には高き賤き心なく色を見て枝をたわむの言葉あり常に直き心をもて眞心なるべきこそ女のほいなるべし。

○維子曰く夫女はかたちのよしあしをとらず言葉すくなにあひきやうあるこそ第一の女なれをのこはうちに文字ありて人のうわさの善惡いはでみだりにいかりのなきを第一ののこといふなり。

○時子曰よろづ我よりかみつかたにはつゝしまねどもあやまり少し我より品くだりたる人の前にはあやしの言葉までも心つかひすべきものにこそ。

女學雜誌　第百三十壹號　明治二十一年十月十三日發兌

社説

○婦女子脩身の覺悟、

二、純潔なれ。

人世を通觀すれば、虎の如くに哮るものあり、狼の如くに吼ゆるものあり、惡鬼の如くに怒るものあり、餓鬼の如くに哀しむものあり。而して其苦痛も、慟哭も、憤怒慷歎も、多くは是れ人の感情より噴火し來るものなり。斯て其の一と度び噴火するや、之が爲めに一家を亡ぼし、一身を殺ろし、引いて一國に大亂を起す、害毒の流るゝところ廣大なり。然るに此の噴火は、水そゝぎて以て消すべきにあらず、蓋ふて以て塞さぐべきにあらず、抑も是れ人心の根底より發し來るの大破裂あるが故に、先づ此の根底に降つて其火を防ぐの外ある可らず、此に至つて只能く防火の功を奏するは即はち、優たる佳人の涙なり。

蓋し、佳人の胸は、愛情圓滿するの處ろたり、故に、甚はだ温たかく、甚はだ優しく、甚はだ感じ強く、甚はだ同情の念に切なり、而して尚ほ、極めて熱心的に、極めて信任的に、極めて温柔的に、極めて犧牲獻身の精神に敦し。左れば、此等の愛情發して一滴の涙となるは、恰かも是れ滿胸の美德を壓搾し、蒸餾して、之を至純の精血となしたるが如し。此の涙の注ぐところは、乍まちにして苦痛を樂しませ、乍まちにして慟哭を笑はせ、乍まちにして憤怒慷歎を輕ろからしむ。人世もし涙だ莫せば、全世界は大砂漠となるべし、世界もし佳人の涙なかつせば、滿天下は是れ噴火山上燒石の纍々たるが如くなるべし。

吾人は、世の男子に向つて其紳士たらんことを希ふ如く、吾が女性諸君に對しては、其の眞正の佳人と爲られんことを切望せり、左れば、あらゆる婦女子の感情は、何卒右に所云る佳人の感情に似て、其滿胸の悉とく愛を以て充ち滿ちんことを懇願いたす。故に、冷々として嚴冬の氷の如きは、或ひはかのナポレヲン一流の男子たらんずる者にこそ相應すれ、大凡そ女性の優たる天稟に於ては決して相應しからぬ者と信ぜり。女性にして若情剛からば、吾人は之を見て、天の使が赤子を縊つ如くに思べし、若冷淡にして極て不感覺あらば、吾人は之を見て、神女が蛇を食ふ如くに思べし。蓋し女性が人世に於て盡す大功德の一は、温たる其感情によりて、人間の痛苦慟哭憤怒慷

歎を和らぐるにあり、然るに此感情の鈍きと若し聾するものの耳の如くんば、吾人は抑も何處にか痛苦を訴たうべき、此の感情より發するの愛乏しきこと若し干天の露の如くんば、吾人は抑も何處にか潤ほされんや、ナイル河の水の絶ゆるは寧ろ可なり、女性の涙にして若し絶せば果して何如にすべき、黄河の淸まざるは寧ろ可あり、女性の涙にして若し濁らば果して何如にすべき。

吾人は、女性が感情の優切ならんヿを望む、斯く計りに熱心なり、而して女性が感情の優切ならんヿを望むに付きては、先づ其の思ひの純潔あるヿを望まねば成らぬヿを知りたり。純潔とは、純淸潔白にして、雪の如く白ろく、本然の誠と其儘に存して、斷えて外慾の穢らわしく混雜せざる者を云ふなり。女性の思ひにもして若し此の純潔の質に富まば、則はち愛情は油然として起り、深切は温平として現はれ、自づからに優しく、自づからに感じ深くなりて、其良人には極めて執心的の戀愛を懐き、其の子供には極めて温たかなる恩愛を寄するに至らん。然るに之に反し、其の思ひにして若し純潔ならざるときは、殆んど是れ、情の露の乾燥し盡したる如く思はる、其人たる到底全心を擧て其の良人をだも愛するヿあたわず、全心を盡して其の愛子をだも愛するヿあたわず、况んや此よりも縁遠き他族の他人に於て、何如にしてか其の全心の誠を動かすに足るべき、斯る婦人は眼こに於て良人を慕ひもすべし、口に於て其子を愛しもすべし、只だたわれたる一時の思ひ出によつて時に目より涙を落し口より深切を吐くともあらん、然れども其愛は、すべて感情の根底より迸ばしり來るものにあらざれば、亦た人心の根底に浸み込みて、之を溶解し了するの力あるまじ。」此故に、純潔は情を養ふ第一の道なり。蓋し、思ひ純潔にして意ばせ誠とあるときは、敢て人を疑はず、敢て私利の念を挾まず、只だ其儘に信任して他に愛着するの德あるを得れば、純潔は是れ滿胸の美德の因て現はるゝの門となる也、此の門にして若し淸からずんば、美德將に現はれんとして遂に現はるゝに至らずして止む。

左れば吾人は、女性の情を養なうとき、常に先純潔なれとは云ふなり、而して、其純潔を養なうの工夫固より之あり、一は天地を見に在り、二は中心に覺悟するに在り。」第一段の習練としては、人其目を放て、先天地の大自然を見よ。其何如に誠にして、其何如に美しきぞや、吾人心を寂めて之に對すれば、日月昭々として懸り、草木青々として繁る、路傍の百合の花は何如

に美しく咲く哉、天に飛ぶ鳩の何如に優きかも、之を見に、茲に哮るものなく、怒るものなく、苦しむものなく、欺くものなし、一面に眞白なるは雪なり、一點に微動するは露なり、此の露、此の雪何んぞ吾が思ひに優つて斯くも淸きぞや、四面沈々、而も吾が爲に飾らず、吾が爲めに驕らず、嗚呼天地一躰の純潔なると至れりと云ふべし、之を見て之を吾が思ひに化する即ち是れ天地によつて自から純潔を養ふの工夫なり」。第二段の習練としては、人先づ世に明暗の二あるとを覺悟すべし。天に晝夜あり、物に盛衰ある如く、人事も亦た明暗の二躰によりて成立つものなり、若し明よりして云はゞ人は天の使の如し、若し暗よりして云はゞ人は猿猴禽獸の如し、故に何如ある聖人と云へども人心なき能はず、又何如なる惡人と云へども道心なき能はず、左れば惡人の處行にして間ま善行あるが如く、聖人の品行にして往々欠點なくんばあらじ。之を以て若し其の明に就きて之を見れば、悉く人事の宜しきものを認め、其の暗に就きて之を見れば、悉く人事の曲れるものを認たむ、然るに吾人は人心を抑へて道心を長じ、曲れるを直して宜しきを伸し、暗きを去つて明るきに就くものなるが故に、吾人が情に於て見る所ろは常に明處なるべし

決して暗處なる可らず。例へば一友人と交わる時、若し之を疑ひ之に反き、只だ其の欠點を覗つて其の長所を見ざれば、此の交際によつて吾人はいよ〳〵己れの暗らきを增したり、而して明るきに於て益したる所ろなき也、故に吾人が世に交るの情は、人の美を見るにあり、人の善を信ずるに在り、人を疑はざるにあり、人に信任するに在り、斯の如くにしていよ〳〵己れを淸くす、たとひ一旦欺むかるゝとありとも、欺むくものは彼にして、我に增減あるなし、吾の純潔の德は如此にして初めて大ひに發達いたすべきなり。之を要するに、女性の滿腑は須からく愛情を以て充滿し、其愛情は百の優德を現じて以て世界の不幸を和らぐるの源となるべし、然るに此等の愛情優德は、先づ其の思ひの純潔なるによつて初めて發達し來るを以て、女子が其思を純潔にするは、正に其情を養ふの第一敎則たるなり」。此故に婦女子は相會して、姦しく閒談するを以て時を消すと勿れ、時に獨り靜かなる地に逍遙し、謹んで天地の大調和を觀じ默想せよ。又た相交り、只だ互に邪推猜忌して思を汚すと勿れ、誠意を以て交際し、誠意を以て人を信じ、廣く人の行に鑑みて、密に一身の品行に顧み、謹んで其の念を淸くせよ。是れ即ち純潔に至るの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

門、愛情に切なるの路、以て世に女性の大恩徳を施くの基いたるなり。經に曰く、心の淸きものは幸ひなり、其人は神を見ることを得べければ也。

論說

○撰擧人たるには男子たるを要す(其二)　光妙寺三郎

「シモン」氏曰く戰時に於ては復た男女の別無く各人其爲し得可き所を以て國家に酬ゆべし男子は胸壁に上り銃砲を放つ可し女子は病院に在りて創痍を包む可し余は知らず何の故に男子に限りて之を鬪戰者と稱するや惟ふに是れ均しく鬪戰者なり胸壁上に在る男子は彈丸に對する鬪戰者なり病院に在る女子は飲食の過度疾病の傳染に對する鬪戰者なり(中略)夫人各位よ婦人の職務は決して男子の職務に劣るに非ず婦人も猶ほ男子の如く鬪戰する人なり只だ其戰ふ處所の異なるのみ然り而して其危險の如きは吾未だ其孰れか大に孰れか小なるを知らざるなりと氏は又曰く婦人は其之を要するや戰んことを欲する者なり又果して善く戰ふことを得る者なり看よ本會の日に益す盛大なるや既に七十支會の佛國各地に存立するを此會たる決して七十支會に止らず遠からずして各邑、各村落に其設立を見るに至らん是れ婦人の戰んとする明證に非ずや又婦人も善く戰ふことを得と言ふは婦人の負傷者を看護する職務に就きて之を言ふあり此職務たる最も善く婦人の性情に適し其看護は啻に病者の身躰に止らず能く其心神に及ぶ是れ豈に男子の及ぶ所ならんやと。

余の鈍筆焉ぞ能く「シモン」氏華美の文辭を直寫するを得ん余や只だ竊に彼此思想の暗合せるを喜ぶのみ。

論者又曰く婦人は政治上の思想に乏し是れ撰擧權を與へざる所以なりと。

余や其言の奇怪なるに驚愕せざるを得ず論者の所謂政治思想とは果して何ぞや夫れ私益と公益とは常に相ひ係着するを以て社會萬般の事一として政事と相離るゝは無し今一二の問題に就きて之を論ぜんに租税の輕重、敎育の得失の如き的に之れ政治上の問題なり而して租税の輕重は直ちに自家の經濟に痛痒を感ぜしめ敎育の得失は直ちに子弟の育成に影響を及ぼす是れ公益私益の關係の最も密接にして睹易きものとす其他の問題と雖も只其直接と間接との差を有するのみ豈に民人私益の外に於て特別なる政治なるものゝ存する有らんや故に婦人にして其私益に就きて利害の思想を懷く者は即ち政治に就

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きて利害の思想を懐く者あり彼論者は婦人限り其私益の利害を知らざるものと爲すか嗚呼婦人を愚視するも亦た甚し矣今や一歩を譲りて假りに婦人は政治思想に乏しと做すも其罪果して何人に在るや婦人の政權を奪ふて其政事思想に乏きを責む是れ鳥の羽翼を斷て彼れ飛揚の志に乏しと言ふに異ならんや。

近世に於て女權の擴張に力を致して大功ある者は「スチユーアル、ミル」氏の右に出づる有るなし余は今女子撰擧權の問題を終るに臨みて氏の著書代議政躰中の語を擧げて以て之を讀者に示さん氏は女子の政權を論じて曰く社會の舊時の景況に於て政權より女子を除斥すべき原則は吾人社會に於て久年以來既に之を拋棄したるに非ずや民事上の權理の如きは其大部分に於て之を婦人に還付せしに非ずや教授の權の如きも之を婦人に認識せしに非ずや今女子を以て隷者に準視し之を家事以内に幽閉し常に男子の權力の下に屈從せしむるは不當の事たるや論を竢たず此不當の事を以て強て此を正當視するや則ち此權力の妄用に對して女子を保護する爲めに愈よ女子に撰擧權を有せしむ可きに非ずやと。

「ミル」氏は千八百六十七年に於て女子撰擧權に係る法案を議院に提出したりしも其の法案は多數を得ずして排斥せられたり。

爾來英國の議院に於て屢々此種の法案を提出する者あるも未だ議院の採用する所とならず但近來に於て女子撰擧權の發議を爲す說者は女子にして相當の稅を納付する者は男子と一般に撰擧權を有す可しと云ふ論據を採れるが如し蓋し英國に於ては財產を以て撰擧權の根基と爲せるに依るあり。

余や之を聞く北米共和聯邦に於ては其聯邦憲法を制定する當初に在りて女子に撰擧權を與ふるの發案ありて當時若し女子が聯合して反對の意嚮を表彰せざりしならば此發案は必ず可決せられしなる可しと近代は毎年新紐育府に開設する婦人聯合會に於て大に女子政權を主張すれども未だ其成効を見るを得ず。

常に喜んで高尙の理を談じ世人の或は理論に趨るを以て誹譏する佛人にして女子撰擧權を主張する論者の最も稀少なるは之を怪訝せざるを得ず政事家社會に於ても之を言ふ者は殆ど笑柄に屬するが如し余や左黨の領袖たる「クレマンソー」氏と一日談話の次論女權に及ぶ時に余が師たる學士「アコラス」氏も亦た席に在り「クレマンソー」氏余に戯て曰く「アコラス」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

氏の熱心主張するに拘はらず男女同權は實行上其困難の多きを如何せんと是れ一時の戯言に出づると雖も女子政權に係る佛人の思想の一斑を看るに足らん然れども學者間に於て女子政權を主張する者の絕て無きに非ず「アコラス」氏の如き實に有力者たる一人たり又女流にも亦た其人なきに非らず其過激の論說を爲すを以て人の耳目を聳動する譏を免れざるが如しと雖も「ルヰーズ、ミツシェル」の如きは自ら信ずるの厚き眞の女丈夫と謂はざる可らず。

女子撰擧權に關する歐米の大勢此の如し現に普廣撰擧の利を採用せる北米、佛、瑞、各共和國に於ても何ほ未だ女子に撰擧權を與へず普廣撰擧の制を用ゆる各國に於てすら此の如し他の制限撰擧の制を用ゆる國に於て之を與へざる復た何ぞ怪むに足らん。

余が撰擧人たるには男子たるを要すと言へるは暫く現今各國の制に就きて之を言へるものにして理論上即ち立法上より觀察すれば女子に對して撰擧權を認識せざる可らざるは余が上文に於て嘖々之を論ぜるが如し。

十九世紀は女子に對して既に民事上の權理を認知せり余や竊に冀ふ十九世紀は更に政事上の權理を女子に認知し以て又其一大榮譽を完ふせんとを余や不敏と雖も畢生の力を此に致さんとす。（完）

○家內經濟の大要（其八）

木村熊二

夫婦倶稼とは文明國に盛に行るゝ事にて家內經濟の基礎とも言べきものなり我か邦にては男尊女卑の習慣は未だ消滅せず良人は外に出て稼ぐ可し細君は常に家に在りて容姿を裝ひ言辭を柔和にして良人に仕ふ可しと父兄も之を敎へ朋友も之を奬む婦人と生たらんには何事にも束縛せられて一意專行する能はず「人の翫弄物となる身はほんに酸辛悲傷籠の鳥」と昔し高尾が嘆ぜし如く樊籠の中にありては智識を育ふ學校も德行を研く基督敎會も心に慕ふのみにしてたちよるべきすべもなく夫婦倶稼して生計を營む事の高尙なる眞味は全く了解せざるものゝ如し社會現時の情況を推察すれば余儀なき場合もあるべけれど志ある婦人の久しく斯る陋習を甘じて生涯を送るものにはあらざるなり良人は三百六十日左樣々々御尤の仰なりとて長官の御髭の塵を拂ひ盡し交際費に俸給の半額を消遣したれど羸儲の昇級も未だ御沙汰には及れがたき其頃は隨分不平の密雲は胸を掩て雪となり霙となりて冷く降來る言辭のあや積る夕も多かりき春まだ淺き細君は不幸にして其意

を了解ず柳の眉を半ば顰めて良人は如何に爲し給ひしや若しや病におはさずやと憂慮に沈む折柄罷清からと下婢が持ち來る書付を忙手請取りて良人の尊前に差出せばチョッといふ間投詞に意味を含ませよき程に言て返しねとシガレットの灰を拂ひながら嗚呼幇間の相手は妓者ならではラチがわかぬとつぶやきける代言事務所の看判は人まち顔に風に動き無事み苦む腕車は白き布に掩せて玄關へ扣へ居たり主人は新聞紙の訴訟條件を讀ながらあゝこのケースは上出來々々如何しても片手が物はあると頻に賞歎してありけるが嗚呼我ながら愚なりゝゝ人の貨を數へて何の益かあると心に耻て言辭には顯さず細君は衣させてふ蟋蟀に霜夜の近きを感ずれども縫べき衣裳はまだなければ徒然なるまゝに火鉢の側に坐り良人が胸中の纖緯を知るや否近頃は御暇がある樣ですねといへば主人は如レ笑　如レ啼　如レ憂　如レ訴　顏色を爲して咳嗽しながらされはこそ依頼されたる條件は許多あれど乃公が着手する程の事でもない少年生にて十分さ」斯る人々の機嫌をとりて生涯を送るを婦人の義務といふ可か余は婦人たる者の美榮を非として妻妾に驕り僞りかざる良人を頼んで生涯を送らんより速に樊籠の累を脫して基督教の空氣を呼吸し夫婦清潔の愛を全

して平和と幸福の地に身を處せん事を望むあり人ハ自己行爲の子なりと古人も言たりき富貴なるも貧賤なるも高尙なるも野鄙なるも他より來るにあらずして自己の心掛如何にあるなり婦人にして供稼といふ事に注意せずんは決して男子の良偶たるを得ざるなり供稼とは婦人が男子の如く外に出て勞働すべしといふにはあらず家內統治と財政の主任者となりて健康を保全し兒女家庭の敎育に從事し奴婢使役の事に注意し男子をして常に內顧の患なからしむるにある也今や自己の最務む可き兒女敎育の事すら其煩を省ん爲に幼稚園に托し財政の事も良人の手に任せ置て顧す奴婢は月給を與へて雇ひたるものなれば如何なる勞働をも命ずべきものなりと思ひて使役する事ぞ多かりける殊に下婢の如きハ微少の月給にて雇れて朝は八聲の鷄と共に呼起され晝は終日割烹浣洗に從事して駝顏綠髮も窓間の烟を帶て黑く夜は燈影斜輝の邊にありて縫を擁するの狀を爲して家鄕の夢を結んとす斯る可憫のものなれば細君たるものはよく之を薰陶して誠實に家內の事務を助力す可に活潑に働けハデスキモノと呼れ柔和なればイクジナシと字せらる少し强情なれば忽ち放逐の命ありてこんな家にハ與平御免を蝙蝠繖肩身をやつして宿下りするも世間にまゝありた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り奴婢を度々更るハ經濟上大なる不利益を生ずるものなりシ、イ、ビーチャル氏日婦人の職業たるや幼兒の身躰最も柔弱なる時には之を看護養育し人の精神の最も感じ易き時限に當りて之を敎練し一家の奴婢を敎誨制御して家内の統治と財政の主務に任ずる者なり如此婦人の職務の重要貴尊なる事ハ敢て男子が戶外に於て務むる所の職業に讓ざるなりと、倶稼とはこの類を言ふなり古今有名なる人々が賢母良妻の力によりて自立の活計を營みて大名を江湖に揚げ一朝貧賤より隆起して社會の上流に地位を占たるも亦多しこれ他なし一人の勤勉と忍耐の結果に外ならずイーストレーキ夫人が嘗て明治女學校の演説に於て女生徒諸子の一顰一咲は他日英雄男子を奬勵して社會の大事業を成就せしむるに足れりと言れたり夫は婦人が男子の良偉となり家に在りて爲しつる事の最も高尚なる狀を言ひたるなり今や有爲の婦人ハ男女同權の説を主張して難有も衆多の婦人の陋習を改良せんとて自ら矯風家と爲り社會公衆の眼前に演説を爲し文場に筆をとりて利害得失を辨ぜらるは實に貴重すべき事なれど先づ第一着は自家の本分たる齊家の事に意を注ぎ又自己を高尚の地に進ましめんとする基督敎に原きて處世の方法を計畫する所あらば男尊女卑の陋俗を改良して一顰一咲の間に男子を奮發興起せしむる最愛の良偉となり更に進んで諸姉が企望する同權の地位に達せんとするも敢て難き事にハあらざるなり。（完了）

批評

○君子と淑女

本月一日、「君子と淑女」と題する新雜誌の第一號出版せらる。山田寅次郎氏發行兼編輯人たり、成田耕之助氏印刷人たり、社は呦々社と號して府下深川東森下町廿二番地に在り、毎月一回發行、一冊三十二頁、七錢とす。其の發行の主旨と思はるゝの條に云く、

呦々氏の「君子と淑女」とに於る目的たる徹頭徹尾實力と鋭氣とを養ひ以て言行一致し行ひ温厚篤實にして氣力勇爲正を取り邪を祓ひ悪魔を退けて平和を主とし三寸不爛の舌利と半尺の健筆に因て、以て天下の君子と淑女を援け、其の優々たる作爲を見んと欲するに在り、其の優々たる子孫を見んと欲するに在り、其の優々たる功跡を見んと欲するにあり。

曩に男女勸學新誌と云ふもの世に現はれたりき、今や追々と紳士及び貴婦人と稱せらるゝように成りたりける、而して今ま玆に「君子と淑女」と號する雜誌を得て、其の目的とする所ろ如此しと申す。最早シメたり、女子は既てゝ男子と同等に列らび得るに至りぬ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○笑而不レ答

人あり、眞甲より女學子を罵る、女學子笑つて答へず、立つて山を見る。二三子之を聞けば、彼れ夫子然として曰く、途方もなきがゆえ也。

○近時の女學論

(一)。能勢榮君、東京高等女學校改良の説明

東京高等女學校教頭能勢榮君は、曩に同校始業の節、改正校則の主旨を説明して、右改良の理由を演述せられたり。其演述草案と見ゆるもの、文第十二號に掲載せられたるに付、吾人は則ち之を一讀するを得て轉たゝ感喜の思ひに堪へず。其演述の題目十七條あり。○。第一を「同校の目的の變換したる事」の説明とす。云く、

偖て此の目的の事に附ては、去る四月中少く御話を致したる事もあれば、皆様の中には御覺への方もあらん、其時は本校規則第一條に東京高等女學校は、優良の婦女たるに須要なる學科を授くる所とすとありたるが少く足らざるところあれば其不足を補ひ、修正を加へて、東京高等女學校へ優良にして有用なる婦女を教育する所とすと、修正を致したりと申したり、而して其時學科を授くる處とすと、教育する處とすとは大に異るところあれば、能く此邊に注意せられんことを望みたりき。

是迄の目的にては、此學校は學問や技藝のみを授くるところなりや、將教育をなすところなりや、其邊判然せざれば、皆樣の中には此邊を知らずして御通學なされたる方もあらん、元と教育とは人の身體及精神を錬鍛して、之を强壯にし、之を活潑にし、其發育成長を充分に遂げしめ、且人の爲に或る目的を定めて、之に有用なる知識を傳授することなりとせり、されば教育とは廣き意味にて、學問するとのみにあらずして、一人前の人間に仕立つる事を云ふなり。

即はち教授所にあらずして、教育場となさるゝとの主旨、實に至當の改良と思はる。但し通學生に對して此目的を達するは實に難し、是非とも寄宿舍なかる可らず、而して今の家政修練場は所云る高等婦人に適して、君が望まるゝ中等女生の企及する所にあらずとせば、今後其校内に、整理したる塾舍を設けらるゝこと尤も切要ならん。

○。第二を「全科生と撰科生との對遇の事」の説明とす。云く、

舊教則は一概に言へば英語と音樂の學校なりと云ふも可なるが如き有樣なりし、新教則は小學校にて高等科二ヶ年の課程を經て、尚五ヶ年間の教育を受け、然る上にて人の妻とならんとする者の爲に設けたる者也。

此主義によつて兩科生の對遇を別にし追々撰科生を減ぜんとの處置は宜しきを得たると也。

○。第三には「文部省の御達並に文部大臣の御演説の事の説明」。○。第四には「人物査定法の事」。○。第五には「撰科生の履修する學科の數を定むる事」。○。第六「書籍縱覽室新設の事」。を説明し、○。第七に至て「口授と教科書の事」を解して、且つ云く、

是迄本校の諸先生は大抵帝國大學、又は高等師範學校より兼務せられ、皆大博士とか學士とか言はれたる方々なりしが、それにては餘り立派過ぎて皆樣に取りては、其口授は或は高尚にして理解しかたく、切角の講説も半は紙となりて已むとあらんとす、是迄の如く他より兼務せらるゝところの大學者が口授せらるゝよりは、寧ろ本校專務なる中等學者が、教科書に就きて叮嚀親切に噛み摧きて教ふる方反て必要なりとす。

右の如く是迄は此學校にて御依賴致したる先生は大學者なれども是よりは大學者を止めて中等の學者に御依賴致すと云ふことになりたり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

既に敎育塲とありては、兼務敎師お役敎師なぐさみ敎師などの能く任に當るものにあらず、故に本條の如き改良に由て、極めて熱心ある、極めて信愛すべき特務敎師の多く相成らんとは、何よりも特に喜こぶべき者也。

第八には「放課時間中の心得」。第九には「試驗規則の事」。第十には「英語に特別の取扱を爲す事」を說明し。第十一、百圓の價値ある一言の解の中に云く、

從前より本校へ入學せられたる方々は、其邊の御考あるは勿論の事と思ふなれども、萬一右の御考へなく、唯世の風潮に連れて(ピヤノ)を學留せらるゝ方々あらば此際能く御熟考ありたきものなり、或る父兄方の御話にピヤノ稽古と云ものを一見致したきものと思ひしに、幸ひ卒業式にて來りて見れば、彼の(ピヤノ)なるものは黑塗なる四角なるものにて、しかも其形大に甚立派なるものにして、之を叩くときは(ポン〳〵)と音のするものなりければ、始めて(ピヤノ)なるものは此の如きものなりとの事を了解せりとのとなりし、若しも斯の如く父兄の方々も何も知らずして娘をして(ピヤノ)を(ポン〳〵)叩かせ、本人も何も知らずして(ピヤノ)を(ポン〳〵)と叩くときは、其の結果は如何なるものにや、此學校は中等社界の人を養成するところなれば、學科の撰擇も自ら中等社會に適當せざるべからず、上等社會の學校は赤阪門内雲州屋敷にあるとのとなり。

甚た宜ろし。第十二には「書物を買ふ事」。第十三には「本校生徒風儀の事」を解して云く、

偖て本校生徒の風儀に付外向の評判を承りたるとあれば之を御話申すべし、元來予は皆樣の風儀は善良なりと思ひたるに、外向の評判は案外なりし、予は敎育社會と交際もあれば、彼の社會の評判を聞くに恰も善惡相半せり、故に今後は半分の惡評を全除し、善評をして圓滿ならしめんとを希へり。

君にして此に注意せられたる尤も喜ぶべし、東京高等女學校生徒の風儀に關し今后に好評判あらんとは、吾人が切に希望するところ也。第十四には「本校生徒たるべき資格の事」を說明し、德智躰に關してそれ〳〵の理想標準を示さる、其中に云く、頭裝は束髮に結び、服裝は和服洋服其好む所ろに從がふと、是れ亦隨分に至れるの言と云ふべし。以下、躰操の事。不注意の事。女學校に於てあるところの困難。を說明して、所云る十七ケ條の演述を了られたり。

吾人は曩に矢田部校長の演說を讀み、今ま亦た此の筆記を讀みて、殆んど驚喜するに至れり。凡そ女子敎育の困難及び其必要は、親しく女學校を管理したるものにあらずんば知る能はざるもの也、蓋し敎育は何の部門に於ても、輕操浮薄なる敎育者を望まずと云へども、彼の女生徒の敎育に至つては特に此の感の切あるを覺ゆ、凡そ全身渾べて純潔、全身渾べて愛、全身渾べて是れ高尙至直の人にあらずんば決して其任に適せざるもの也。東京高等女學校に就ては、吾人是迄屢ば淚を落しぬ、今に於て、其の校長及敎頭より、此の如くに熱心、此の如くに深切なる演說を聞くを得たるは、先づ切に感謝する所ろ也。吾人乞ふ刮目して其實際の決果を、望み、信じ、且つ祈らんと欲す。

"'Tis education forms the Common Mind."　　*Pope.*

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（二）。實女養女の異同

去月廿三日發兌裁判粹誌第九號は、横濱始審裁判所明治十九年第二百十九號養女離別件（明治廿一年二月廿一日裁判言渡）の裁判を說明したり。中橋判事は之を判決して、「我國の法律は實女養女の間に區別を設けざる結果にして血緣の有無遠近を問ふに及ばず」と言渡されたる由。其の理由として承はるに、

養子が其父其家に對して有する權利義務は實子が其父其家に對して有するものに異なるなき事、

親戚共同の處置によりて其實子を離別すると能はざる如く亦た彼等によりて養子を離別する能はざる事、

實子は其父の死したる跡を相續するの權ある如く養子も亦た當然に之を相續す可き權ある事、

之によりて、養母が死したる後ち、其養女を不行跡不深切なりとして親戚一同が離緣せんとしたる、此の事件は、遂に離緣すべき權なしとして判決せられたり。

右養女實女相違有無の件、尤も注意し置くべきもの也。

（三）。博士中村正直君、君子と淑女

「君子と淑女」第一號に題せられたる、中村博士の特別寄書中に云へるとあり、

今日歐米諸邦に於てジエントルメンと云ふは恰かも君子と云ふにあたれり而して自助論にトルージエントルメン（君子）の義を解して曰く眞正のジエトルメン（君子）は極善の儀範を以て其身を鑄造せるものなりと又曰く古來爵位ある人を稱してジエントルメンと云へり然るに法國の大將曾てその卒ゆる隊伍に謂て曰くジエントルメンの品行は世間の爵位を假らず別に威勢ありて自ら他人に尊敬せらる其尊ぶべき外貌にあらずして實德にあり身外所有の物にあらずして方寸の田地に在りと又曰く古の詩人ジエントルメンの德を述べて君子は正直にして善を行ひ心中の實を以て言語に發すと云へり余謂へらく禮記に君子之容舒遲とあり即ち寬舒温和從容安靜にして卒暴ならず局促ならざるを以て君子の容とするなり舒遲はジエントルと同義なり又レデイと云ふは元來貴爵の婦人を稱する者にして今は汎く用ふれども婦德ありて體面ある者を指すが故に淑女と云ふに當れりと爲すなり。

それに就き一の新聞紙に出でたる支那と日本の比較と云ふ條を見て慨歎に堪へざる者あり即ち佛國のオルレアン親王の談話なり其中に言へるとあり日本人は嚴肅なる人民に非ず試に日本人に向て政事上又は公共の事柄に就き談話を試むるとあらんには彼忽ち其肩を聳かして逍遥し面を反向けて失笑すべし余は印度と支那に於て許多の面白き事柄を見たれども日本に於ては一も此等の事柄を見ざりきとこの嚴肅なる人民に非ずと云へる一句はこれを反言すれば輕燥なる人民とか浮薄なる人民とか云ふに均し吾が邦の君子淑女たる者自ら省察せざるべからずその他の當否は措て論せず以此の一句は當時吾が國を代表したるものゝ體格なり品位なりと外人に思はるれば不快の至なり嗚呼君子と淑女との任豈重大ならずと云ふを得んや。

吾人嘗て、理想の紳士、理想の佳人、と題する兩つの長文章を掲げたるとあり。大意、略ぼ博士の高見に同じ、蓋し今の日本男子の一大欠點は、剛直嚴正ならざるにあり、今の日本女子の一大欠點は、守節死道の勇なきにあり、此等の欠點多からん限り、所云る君子と淑女を見る能はざる也。

雜評

萬國地理、萬國通鑑、支那通史、其外此欄に於て批評すべきもの集り居れども餘白なきに付、次號にゆづる

叢話

○基督教公認の可否

秋風と共にすゞしくは相成ながら御事繁き間だにて朝夕の御きげん何如がやと御案じ申上候陳者此頃ろ東京府下に在住遊ばさるゝ愛兄等より御上へ向け基督教公認の事を建議被成候やの由新聞紙よて承はり候之に付ては妾等が友人仲間にても色々と申すものあり此上は只だ編者閣下の覺召を伺ひ候て互ひの疑ひをはらし可申と相定め無躾ながら御多用中をも顧みず尊慮伺上まいらせ候假初の御音づれあり吹來よかしとは閣下の親友……等の切つに祈る所ろに侍る。

但馬出石の知人某々女史より右の如き問あり、則はち本紙上にて左の如く畧答申上候。

拜答、斯る至當の處置を倘ほ彼此と申す者のあるは即はち當今斯る處置の切要なるとを證するものに候。政教別途の事は言ふ迄もなき眞理にして其上聖經中にも明文あるとに候、此度の公認建議は即ち可成政教別途の御處置あらんとを建議したるものに候、何んとあれば政府が神佛二教を特別に觀とめて基督教に同様の取扱を與へざること即はち政治を以て宗教に關係するに均しきゆゑに候」。宗教の自由は勿論政府の許否すべきものに無之、之はキマリ切つたるとに候、此度の建議は基督教の公許を乞ふにあらず乞ふべき理由は少しも無之也、只だ公認を促したる迄に候、公認を促すとは基督教徒は最早此丈あり其實際の不便は斯々也と申して、政府は之を日本國民の若干が信奉しつゝある宗教と認め、則ち宗教自由の道理によつて之に至當の處置を爲さるべしと申上たる迄に候。政府が公認せざる所以は即ち關係せざる所以なりと云ふものあり、之は人の邪魔を爲すが放任する也と云ふに同じ、何如ある會社も會堂を持ち得るに基督教徒の結合は何故所有し得ざる乎、何如なる信仰を持つ人民もお役員たり得るに基督信者は何故得ざる乎、已に基督教を信ずるに何故之を基督教の宗旨として記入せざる乎調査せざる乎取扱はざる乎、惣て他の者に異なつて取扱ひ乍ら、之が即ち放任なりと云はゞ、消極的の取扱はいつも放任なりと定むべき者に候。又建議の志は好し處置は面白からずと云者は此際何卒面白き處置によつて更に建議したき者に候、然し斯るキマリ切たる、何んでもなき、極めて至當淡泊の事を政府に申上るに大層に騷ぐは愚なると

に候、同志の者が最初より靜かにしたるは其故に候。
必竟之は至當の處置なるのみか至當なりや否やと問ふも可笑しき程の者に候愛姊等も最早別に彼此御申なきが宜しからん何んとなれば明治政府が斯る至當當然の建議を受取られたる以上は、基督信者も最早此丈の人數になりしや申す如き取扱するが其教に便利なるよと心附かせられ、則はち其の建議通りに取扱はるゝは更らに明白の事に候ゆえ也かしく。

此事件に關しては基督教の信女仲間にて色々の議論あり、夫が爲め時間を潰し家政の妨げとなつては女學上に氣遣はしきとゆへ、右の答を本紙上に掲げて一言の御注意と致し候。時は安し行て休み玉へ。

○子供を一樣に取扱ふべき事

双子には同樣の衣物を着せよ、と申して之は田舍などにて昔しから嚴しく敎ゆる所ろ也、何んの譯とは知れざれども必竟兩人を同じく取扱ひ、一方に驕ぶりの念を生じ、一方にヒガミの根性を生ずる等の事なきよう、古の村夫子が考へ置たる敎と見へます。然るに之は双子のみに限らず、凡そ兩親が其子供を取扱ふには、いつも此の考へがなくては成らぬデス、萬一末子を不愍がつて、無暗に之計りを愛したりなどしますると、元來心の濟かりし其兄哥どもが、自づと不平を起して面白からず思ひ、左なくば極めて溫和しかりしものを之が爲に大いに激するともあります、然るに弟は之に附け上つていよ〳〵大きな顏を爲し、遂に兄に手向ひして悌道を欠くに至り、既に弟ならざるよりして孝ならず、不孝不弟にして則はち上を犯すとを好むに至るとも間々あるものです、一家内のホームよ此上なき不幸です。然し親として子を可愛がらぬはなく、何の子が一番と云ふは無いとですが、只だ其の愛の現はし方に相違あるより、斯る不幸の決果も起るものです、必竟、子供が大きくなつてから驕慢邪推ヒガミ根性などと云ふ面白くない氣質を現はすのは、元と親の育て方が惡るいので、即はち子供を一樣に取扱はぬからの誤りです。西洋の政理學者は「四民をして尤も能く相和せしめ、尤も能く發達せしむるの策は、即はち特別干排を止めて、自由平等の一汎保護を爲すにあり」と、申したるが、此の言亦た推して子弟敎育の心得と爲すべし。

○賢夫人、良人を諫む

俊兒あり年已てに長ず、出でゝ四方に交際せんとす、父可か

ず、蓋し、今に至る迄で出さゞるを笑はれんことを恐るゝなり。夫人涙を拂ふて諫めて曰く、良人乞ふ再考せよ、君もし中心すでに之を容すべしとせば、今に於て之を容すは、即はち道なり之を一利とせん、容して而して父の慈を示す之を二利とせん、聞て而して言を容るゝを示す之を三利とせん、君が公けに容すを見て隣人皆な君を徳とす之を四利とせん、之によりて一家和らぎ、愛子懐つき、衆兒服し、隣人敬す。良人乞ふ再考せよ、君もし中心すでに可として、只だ今更めて之を容すを以て後れたりとせば、之に由て君が悋を示す一の不利なり、故なくして愛子反く二の不利なり、初めて君が容るさゞるを明白にす三の不利なり、隣人君を野なりとして交はらざるに至る四の不利なり、之に由て君勇なく、愛子反し、徳なく、隣人退くるに至らん。良人躊躇として未だ決せず。

○明治論事矩、三段法　　是空子

第一段　スペンサーは斯々に論じたり、

　第二段　余はスペンサーを祖述いたす、

第三段　故にスペンサーの論を可とす。

一年の計は穀を樹るに如くは莫く
十年の計は木を樹るに如くは莫く
終身の計は人を樹るに如くは莫し　　管子。

○百人一首一口話（十五）

鈴木弘恭講
八木鶴二録

光孝天皇

君がためはるの野に出てわかなつむ我衣手に雪ハふりつゝ。

此の御歌ハ古今集にのせてありて。詞書に仁和のみかどみこにおはしましけるときに人にわかなたまひける御歌とあり。仁和のみかどとハ。此の天皇の御事であります。則はち天皇がまだ皇子にてまし〳〵ける時。誰にもあれ人に若菜を給ひけるときの御歌であります。或は云これハ彼の後に昭宣公と申したる。當時の攝政藤原の基經に給ひたるなりと。又新撰集にハ此の御歌をよみ人しらずとしてありますが。これハ古今集に從ひて時康皇子の御うたなると疑ひもありません。此の御歌ハ至りて安らかなれバ。誰にもよくわかる御うたであります。さて是ハ古へハ正月人日（今の一月七日）菜羹を服すれば万病邪氣を除くといひて。皆食したり。近き頃までも此事ハありましたが。今も田舎にハ此の事が殘りてをります○我衣手とハ。袖のことえ。衣の字はそとよみますから衣手とかいてそでともよみます。後世に至りてハたゞ衣といふべき所をも手の字を添てころもでといふやうになりましたが。これハ心得ちがひであり升

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一首の意ハ。卿に進らせん爲に餘寒の猶はげしい春の野に立出て若葉を摘ましたが。我が衣の袖に雪がふりかゝり降りかゝりして寒むかつたとである。さてかやうのつまらぬ野菜ではありますが。我が志のほどを受させ給へとの御意の歌なり○語格は。一段切れの御歌にて五の句雪はのはが指辭にてふりつゝのつゝにて結びたる格であります。

小説

○哲女の卷

月の舍しのぶ

（第五回）空蟬（下）

頑陋なる慾張老女は、自稱天文學博士の前に來り、

旦那さま來ましたよ、此間だ話したのが、大層ボン／＼云つて、權柄らしく哲さまに會いたいと云います、ホントニ威張くさつた、厭な男です、が旦那さま何如し升う。

博士は、大目鏡でじに、チロリと見乍ら、差出す名刺を取つて、

　春日剛

一寸ッと裏を反へして、

Go Kasuga. Ph. D.

と見たり、ヅボンの左右の隱しに兩手を插し、默して二三步步るき出せり、又た此方に四五步步るいて默して老女の前を通る、

旦那、どうします、彼處に待つて居ますよウ。

先生更らに立ち反り、

よろしひ、會わせろ、ダガ隣の部屋にしろ。

デモ會わせたら、此の上また何んなに成るかも知れやしない、若い者には油斷が成りませんよ、一層追返しませう。

イヽヨ、會わせろ。（口の中にて）どうせモー少しの間だダ。

老女は怫としてグツ／＼言ひ乍ら、但し何の會釋もなく立ち出て、戸をパタンと投げ立てゝ出て行たり。

先生ハッタと戸を睨らまへ乍ら、則はち冷笑して長椅子に倚り懸り、

キヤツは何しに來たか、いつも／＼面倒臭い靑二才だ、大坂でもキヤツの爲めに幾ら邪魔をされたか知れやしない余計な世話を燒きくさる、ダガ哲奴がキヤツに迷わされでもすると大變だぞ、切角是迄の骨折が無駄になつて仕舞ワ‥‥然しマヽよ、モウ直に札幌に行つてアイノの仲間入をさせて遣るのだ、名殘のあわれみに一度會せて遣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るワ、アッハッハ、汝ちが悪いのでは無いぞ、汝ちが財産を持つて居るのが悪るいのだ、然し今じやあモゥ何にも無しだ、之から貴様の躰だて根限り働らいて貰うのだ、仕方が無いワ、夫にしても己れはマア非道い事に成つたナア、チエーもう破れかぶれダ、人間も一つの動物だ、ビビセクション(解剖試験)の爲に殺ろしたのだ、ナニ殺したのが何如した、殺ろして悪るいか、悪るい‥‥悪るい、ナアーニ糞う‥‥功名戰爭に使はれて何人死ぬるぞい、暴逆政府のお陰で何人死ぬるぞい、皆な殺ろされるのだ、自分でも不養生をして死ぬるだらう、自殺するだらう、人が殺すのと何程の相違ジヤ‥‥シッ〳〵何如した‥糞う。

然し好よ‥好よ‥貴様はマア美しい子になつたナア‥能く其様に清くなつて呉れた‥‥貴様の母はナ、今比ろ何處に居るか知れんが、ナニ彼奴などは居つても役に立ん、居たら迚も貴様のように立派な子は出來なかつたのだ、よく己を夫程に信じて呉れる、有がたひゾ、ダが貴様の可愛ゆひ計かりに色々の事も爲たのだ、ア、〳〵己が萬一居なくなつたら何如するだらうナア、

時に隣座敷に大聲あり、ハット氣附きて初めて哲女に面談しつゝある男子あるとを思ひ出し、兼ねて立ぎゝの爲めに結構したる間いひの伏間に身を傍せて、何事をか云ふらんと耳を欹だつれば、

お静かになさい、謹んで承たまわります、万一叔父に左樣の事があると爲ましても、人に聞かせたく御座いません、

若し無いとあらば尙更ら聞かせたく御座いません。

暫らく聲なし、彼の博士(否な)彼の先生(否な)彼の老人而かも烈火の如くに眼こを輝かせたる、殘忍暴逆の面色を顯いしたる、彼の老ぼれは更らに耳をすり寄せて聞たり。

何故叔父が、何の怨みあつて、左樣に私しを害しませう、叔父は私の保護者で、敎師で、父なき后ちは實に父の如くでありました。

左樣にお信じなさるは立派なとです、然し只今申したる證據は、其の尤も確かある舌を以て辨ずるでは御座いませんか、大坂で相場に大失敗して、四條家所有の公債は悉く無なつたのみか、尙其上に一萬餘圓の負債と爲つたぞ、手代を出奔させて、出奔させたのでせう其后は影を見せんと云ひますから、而して悉とく其の負債を放却し、此

(一六)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のお宅も、地面も、之れ此の通りに既でに抵當に這入て居る、札幌農學校の教授云々とは悉皆僞言です、秦無極と云へば、學者社會で口にするだも愧づる所ろです、殊に農學校の天文學教授は、友人の町田民と云ふが先月既でに參りました、實に非道い僞言です。

又暫らく聲なし、聲なきほどに老ぼれはいよ〳〵騒ぐ、或は丈伸びし、或は腰を屈め、右の耳を當て、又た左を當て、寸間伏間を離れて又復たび耳を寄せたり、

あなたの教育の仕方が、已でに秦の志を現はして居るです、何故へ左様にきびしく教育して、夜もろく〳〵眠らせぬほどに爲ますか、何故人に交際せしめず、一切の樂しみを斷たせ、始終家に閉ぢ凝らせて、アナタの躰だを弱くさせます乎……即はち之れが秦の精神のかくせぬ所ろて、アナタを學問責にして殺ろす……。

春日さんお止ください。

學問責にして殺すつもりか、アナタを一生の獨身者として

四條家の財産を其子に……

アッと叫んで物音したり。同時に見る老ぼれは半狂亂の如く、ブル〳〵と身をふるわせて、二三歩行き通ひたるが、少しく

（一七）

く毅として先づ入口の戸を〆たり、鍵を卸したり、コト〴〵と叩き、高き破聲の聞ゆるにも係らず鍵を卸したり、手早くカバンに何やらん物を詰め込み、机の引出より取出したる伏紗づゝみを詰め込み、早惶立出んとして又立歸り、鉛筆もて片紙に數行の文字を留め、入口に來つて密かに戸を開き、隣座敷に哲女を呼び生くる聲の高きに乘じて、電光一閃、身を轉じて表に飛び出でたり。

◆　◆　◆　◆

○小說神髓

蘇格氏著ケチルチルス　（第三十一回）

時に入わり尾して來りけん知らぬ間に侯に近づきて其の上衣を引く驚ろきて之を見れば顏に彼ひものをしたる役者風の人あり何者ぞと咎むるに是非內々にお目にかゝりお談し致したしと云ふに名の無きものには談話すると出來がたしと退くれば彼れいよ〳〵近づき君が名譽に關する一大事あれば暫らくの間だ時を與へられたしと申す由て再たび其名を推問すれば彼れ別人ならず即はちエドモンドトレッセリアンにて侯約束によつて二十四時間は口を開き有躰に申すとを得ざりしが今こそ自由に君に述ぶるとありと云ふにぞ、レスター侯スハヤと思ひ早や飛びかゝりて一打にせんとしたるが辛くも心を制して靜かに問ふやう君は何を求め玉ふ乎、正義を求め侯、正義とな正義は何人も求めねば成らぬもの也何如にも求めらるゝ通り之を與ふべし、トレッセリアン云く時早や迫まりたれば是非とも今晩お目にかゝりたしお居間に參るべうもやと云ふに、レスター首べを振りイヤ屋根の下家の內にては宜しからず青天井の下でなくては不適當なりと云ふに、トレッセリアンは侯の樣子の只ならぬを見て不審み乍ら何か怒り玉ふ事のありとや兎も角場所は何處にても宜し三十分ほどの時間を與へられたしと申せば、レスター侯更らに激してイヤ三十分も掛り申さじ陛下が寢殿に御入御の后ち園にて會ふべしと約して立分れたり。レスター侯は室に歸つて大に喜び扨も都合よく相成つたり今夜こそ思ふ存分に復讐して吾が大恥辱を雪ぐべしとて腕を扼して相待ちたり。

既に夜とは爲りぬ、夜も早や深更とは爲りぬ、陛下は寢殿に入らせ玉ひお供の面々皆な散り〳〵て或は今日の樂しみを夢に見るか又は明日の樂しみを迎へんとて床に入るにケチルチルスの城主のみは安からぬ思ひを以て一先づ寢所に退ぞきつつ直さまパーチーを招きたるにパーチーは既に一時間前に城

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を去り三人の同行者ありて其一人は輿に乘りたりと知らせ參りぬ夜明迄は出立すまじき筈なりしよ何故左樣に早く出で立ちしぞパーチーの手の者にて誰か殘り候はん其者を早く召せとあるにマイク急ぎて馳せ參る、レスター侯獨り言すらく嗚呼パーチーは我を愛するものなれども餘まり萬事に熱心すぎて反つて困ることあり先刻命じたることは少と過酷に過るところあり先づ暫らく待せ申さんとて傍はらの硯を引寄せつゝ短書を認ため、

汝に命じたることは暫らく猶豫すべし追て命ずる迄執行す可らず尚ほ印を要するとあり彼の指環を持たせ歸せ送り物を屆けたる後には用あるに付早々歸るべし

右の短かき書をマイクに托して早々馬を走らせて追附くべし必らず遲怠す可らずと命じたり。

扨てもレスター侯は目立ぬ衣物を着して上衣を被ひ一刀を隱して右手に燭を執り裏戸より庭へ降りて密かに脱け出でたり瀧の音は遠くに聞こえ夜の鳥物凄く鳴たり、あたりを見廻はすに人影なければ扨ては役奴伴の少なかりし姦婦を奪はんとて後を追行きしにはあらずやなど心配する折柄暫らくして近づき來る黑きものあり怨恨無上のトレッセリアンいざ其の聲を聞かぬ間に一刀に切棄てんかと思ひはやりたるが否な待て暫ばし先刻彼が申しかけたるとも彼が何かの計畧ならん良し假りに欺むかれたる風して其の奥を窺がひ其上にて切度成敗し遣はすべしと覺悟しつゝ、先刻の用事とは何事ぞ承はりたしと聲を和らげて近づいたり。

佳傳

○村好娘、ドラの一生　　みどり述

單純と云ふ事がありますが、單純とは、雜り氣の無い、餘り種々に分れて居らぬ、極て大元と云ふ意味である。世の中の物を觀まするに、初めは極く一つで小さい、ソレが段々に分れて發るのです。其の色々に分れた時に之を見ると、種々混雜して居ッて、少しも筋目も立たず、或は醜きものであるが、尙ほ段々に進めば、遂には調和したるものに歸するが順序である。何事を見ましても其の通り、景色を見、花を見ますれば、直に其意を論ずることが出來る。葉が漸く一枚か二枚出る、胸に色もなければ飾りもない、タッタ一つの花が路傍に咲て、誰にも知られねど羞かしさうに笑を帶て居る、是れは花の最も單純なるものである、是れより漸々進めば、立派のものにはなる、飾りを着けたる物にはなるが、甚だ混雜して往々人をして見るを厭はしむるに至る。併し進んで尙ほ一層大きく見れば、天地は一つ、調に調和したるものとなつて仕舞う。總てのものは皆單純から出て、色々の物に分れ、遂には單純なる一ッの調和したるものに歸するのである。人間を御覽なつても其の通り、昔しエデンの花園に、智惠も學問も無き所の愚かなる人間が二人居ッた。ミルトンの詩などで想像すれば、何れ程に單純で、何れ程に淡白であつたか、是れが段々と進むに從て、天下を覆す程の奸策を廻らす者が出る。然らば人間は惡るい方に向ふかと謂へば、然うでない、遂に立派なる、調和したる、大なる人間となる。是れが道筋であるのです。而して何事を見まするにも、己れの立て居る地位を姑く措て、己れの最後にある者を望む、之を理想と云ふ、或は己れの最も大元のものを見る、之を單純を觀ると云ふ。アナタ方が理想を見んとする時は、或は孔子或は基督を見よ、此等の人へ後に出でまする立派なる人間の雛形を見せて居る。ソレと同じく、大古にある、智惠の無い、學問の無い人間を見れば、餘程自分の爲めにな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ることがある。而して今に於て其の單純なる人間を見んとには、田舍に往て見れば、此の類を多く見ることが出きる。固より智識學力は無いが、只其の心の淡白なると、其の淸さと、其の單純なるとハ、實に我等の學びになるものが多い。ソレで、テニソンと云ふ詩人が、ドラと云ふ女の事を書た詩がある、之を讀んで大變面白いと思ふたから、今御話しますが、ドラの如きハ、實に學問も何も無き、一の田舍娘である、其女が、何れ程に淸かつたか、何れ程のとをして死んだかと云ふとが分る。

地借りをして居る百姓アルラントと云ふ老人と共に、ウイリヤムと云ふ男と、ドラと云ふ娘めが住まつて居ッた。ウイリヤムと云ふのは、息子、ドラと云ふは姪であつた。アルランは二人を較べ見て、時々考たとがある、何うぞ此の二人を夫とし妻としたいと。ドラは獨り伯父の心を考へ知つた故に、ウイリヤムの愛を得やうと務めた。其の若者はドラと始終一所に居た故か、少しも此の娘の事を考へなかつた。」一日アルランは其の息子を呼んで、我息子よ。私は誠に遲く婚姻した、なれども私が死ぬる前に、私の膝の上に、孫を載て見たい。私の心には一ツの釣合ッた夫婦をこしらへた、お前はあのドラを御覽、ドラは誠に好い女で、年には優せて儉約の子である。アノ子は我兄の娘、其の兄と私とハ、一度言爭ふて分れて仕舞ッたが、其後兄は遠き所で死でしまつた。其の兄の爲めにドラを預ッて、養ッたのである。私はお前の妻にしやうと思ッて、愛して居る。私は永き間、夜も、晝も、此の婚姻を望んで居ッた。ウイリヤムは手短かに答へた、私はドラと婚姻することは出きません。私の命にかけて、ドラと婚姻するとは出きません。老人は怒り、手を組合せて再び言ふた、子供よ、お前は從はないか、左樣の答を言ふか、私が若い時には、親の言葉は掟であつた、今もお前は私に從はなければならぬ、モウ一度見たがよい、モウ一度考へたがよい、ウイリヤムよ、一と月考へろ、而してお前は私の思ふ樣に返事をしろ、若し然うでなくば、吾等を造ッた神樣に任せて我家を出ろ、吁其時再び我家を暗ますとをするな。ウイリヤムは狂氣の如く答へて、口を緘んで去つた、彼を見れば見る程に、愛らしくない、之れに酷く當れども、彼は最と溫和に之を堪へたり。一月過ぎた時、ウイリヤムは遂に、父の家を出て、近邊の百姓の日雇とりと成り、半は愛の故か、半は恨みの故か、メレーモリソンと云ふ、或る日雇男の女を妻に娶つた」。婚姻の鐘の鳴り渡る時、アルランは姪を呼て言ふた、私の娘よ、私はお前を誠に愛する、然し若し、お前が一度私の息子であッた者と話しをするか、あのウイリヤムが己れの妻と言ふた所の者と言葉を替したあらば、我家は最早やお前の家でないぞ、我言葉は還らぬ、我言葉は掟である。ドラは溫和なる者

ゆえ、左樣には致さじと、約束した。然しドラの考へには伯父の心は早晩和らぐであらう、替るであらう、必ずさうばかりではあるまいと思ふた」。日は過ぎ去ッた、ウイリヤムに一人の子供が出きた、其頃からしてウイリヤムは、難義をして、心を傷め乍ら、毎日々々父の門前を通る、然れども父は少しも助けない、ドラは、己れの貯へるとの出きるだけを貯へて、窃に之を遣はした。なれどもウイリヤムも妻も、孰が之を遣つて呉れたかは知らなかつた。其の後、ウイリヤムは熱病に罹つて、秋の實のる頃に、遂に黃泉に旅立ちした」。其時ドラは、メレーの所ろに訪づれた、メレーは、其子を膝の上に置て、淚を浮べ、ドラの事を樣々に惡しく思ふて居た。所ろにドラは來た、ドラの申すには、私は今迄伯父の言葉に從がつて居たが、然し、ウイリヤムに斯かる事の出きたのは、元はと云へばみな私の罪ゆへである。ソレ故に、今過ぎ去つた人の爲めに、又あなたの爲めに、又アノ人が遺して置た孤兒の爲めに、あなたに申します。御覽なさい、此の五年の中に、今年程に好き收獲は無い、私は此の小供を連れて、小麥畑の中に匿れて居ッて、伯父樣に會いませう。伯父さんが好き收獲を見て、喜んで居る所ろに、此の子を見せませう、定めて伯父さんは死んだる人のとを思ふて、此孫を愛するであらう」。ドラは此の子を連れて、畑に行き、種子を蒔かざる高き地の上に座つた、四邊には罌粟の花が咲き亂れて居る。彼の老人は、畑に來て見たが、孰をも見るとが出きなかつた、其は、働き人の多勢が、ドラが小供を連れて爰に居ると話さなかつたから、見へなかつたのである。ドラは立ちあがりて、伯父の所へ往かうとしたが、心弱はくて往かれない、斯る人は斯りし、日は暮れし、四方は闇くなつた」。扨も翌朝となつて、ドラは再び氣を勵まし、今一度小供を連れて、丘の上に座つて居つた。四邊の花を取り、花の輪を作り、小供の帽子に結び附けて、老人を喜ばせようとした。年とつたる人は畑に來て見て忽ちドラの居るを認めた、人々には仕事をさせ置きつゝ、自分獨りそばに來りて問ふた、昨日お前は何處に居た乎、其子は誰の子であるか。ドラは其の目を地上に放げつゝ、徐に答へた、是れはウイリヤムの子で御座ります。アルランは曰く、私はウイリヤムの子ゝ逢うなと、お前に禁じたではないか。ドラは再び云ふ、あなたの御心任せに、私を爲されて下さい、然し、此の子を愛して下さい、過ぎ去た人の爲めに、此子を愛して下さい。（未完）

寄書

○文苑

鈴木弘恭大人撰

草花
秋ふかみ露のおきそふや千草に月も心をまづうつすらん　石川ろく子

同
咲きとさく花のさかりを見にゆかん朝とくおきて駒にまかせて　岡田れん子

同
いづれをか家づとにせんめもあやに今盛なる野へのやちくさ　井上なほ子

同
數ならぬ賤がかきねも花さけばゆきかふ人ぞすぎかてにする　豐島忠子

同
我宿に植し千草の花さけばうさをわするそうれしかりける　喜多島貞子

同
わがやどのま垣の草の花ざかり道ゆく人もたちとまるらん　中村とめ子

同
打なびく尾花の袖にまねかれて志ばし立よる野へのくさはな　江間くめ子

同
軒ちかくほころびそめしふぢばかまにほひゆかしき心ちこそすれ　小池いよ子

同
ことしわが手植ゑうゑし七草の花へやうやうさきそめにけり　原田せい子

同
からき世を忍ぶか岡の女郎花ひとまちがほにさき出にけり　別府とく子

月前薄
月住める野なかにたてる花すゝき道ゆく人の袖かとぞみる　秋元さは子

同
すみのぼる月をよろしと花すゝきほのかに人をまねきつる哉　平尾たけ子

同
花すゝきほに出てたれをまねくらん月も雲まをもれにしものを　跡見もも子

同
水もなき野へになみたつ花すゝきてりわたる月の舟も見にけり　跡見せつ子

同
心なく志けれる野への花すゝき露をよすかにつきぞやどれる　松野鐵千代子

同
住すてし宿とも志らで花すゝき月にうかれて人やまねける　浦早苗子

同
花すゝきまねくたゞもとの志ら露にしばしやどれる十六夜の月

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○皇女御命名式

去る六日は去月三十日御降誕遊ばせ給ひたる皇女の御命名式を擧行せられ御名を昌子内親王御稱號を常宮と御命名あらせられし旨勅使を以て右の御寢輸を青山御所脇なる御產所へ下されし由に承はる

前號に去月二十九日夜と記せしは三十日の誤に付き此に正誤す

○東京慈惠醫院幹事

皇后宮には去る八日三條公爵夫人、鷹司公爵夫人、黑田伯爵夫人、西郷伯爵夫人大隈伯爵夫人、寺島伯爵夫人、土方子爵夫人、吉田子爵夫人、杉子爵夫人、大杉子爵夫人の十名を召させ賜ひて來二十二年東京慈惠醫院幹事を仰付け賜ひたる由に承る。

○米女客渡來

過日米國組育監督教會員ミスカーター女史渡來ありぬ、植村正久島田三郎兩氏と倫敦にて邂逅せし由よて、其紹介により編者厳本方へ來訪せられぬ、島田兄の書によれば、

女史は是迄傳道上有功の人と承り候既に歐洲大陸へも十二回の旅行を爲せり尤も婦人の狀を視察するに力め其實狀を本部に報告し弘敎々育上着手の順次を定むるの考案に供ふるとの事に承り候同婦人は今回日本に一ヶ年程滯在の見込にて近き中に出立すると申候……同婦人の言に英米人の日本に居る者に知る人あれども日本の實狀は日本人に親炙するにあらざれば其眞を得難しと申され候。

吾人暫時の面談によりて承へるに、女史は米國に存する八百餘萬の印度人教育の事に熱心し、多くの學校を其土人教育の爲めに開きて、自ら總理し、尙ほ土人に栽縫料理育兒衛生等の方法を敎へ、每々其戶々を巡りて婦女子を導く等の事に從事し、又た時々外國諸邦に行て、監督教會が設立する學校の學況を取調らべ、敎員の不足生徒の進退等に關して心配せらるゝなりとぞ。年齡三十三四、長顏暗黑怜悧の貌あり、米國婦人禁酒會が、近來禁酒主義を離れて女子投票權の事に盡力するを不可とし、女子はホームの王なりと辯論せらるゝに由りて其人物を推知すべし。當時築地三十八番コール氏方に同居す、日本人の來訪を特に喜ばるゝ也。

○もしや草紙

福地源一郎君暫らく政海を脫し、假りに櫻痴居士と號して、もしや草紙を作る、日々新聞の第一頁に日々出現して甚はだ面白ろし。之に對して色々と注文するものあるに際し、吾人も亦一應の注文したきとあり、即はち何故へ此草紙には貴婦人社會の實況をモ少し現はし玉はぬ乎、鎌爪時に雲間に洩るゝの趣なきにあら

ねど、兎角厭應して顧みて他を言ふは甚はだいぶかし。某書生は、此の厭應に由て上流婦人の御偏精恐ろしきを推すべしと云へり、斯ては切角の御用心が反つて貴婦人を傷つくるものとなるべし、居士更らに筆を轉じ、高爵女流中に天女の如き佳人多くましますとを寫さずんば、吾人は女權賛成家として甚はだ慷慨いたす。

○東京美術學校　官報十月五日分に、いよ〳〵同學校の規則書を公にせらる、云く

總則

第一條　東京美術學校は繪畫彫刻建築及び圖案の師匠（教員若くは製作に從事すべき者）を養成する所とす

第二條　本校に普通科及び專修科を置き普通科を卒りたる者は普通學識の教員たるに適應すべく又は教員會議を以て專修科の生徒に撰擧せらるゝを得べし

學科課程

第一條　普通科の修業年限を二箇年とし之を分ちて二學級となし專修科の修業年限を各三箇年とし之を分ちて三學級とす

第二條　專修科の課程は繪畫彫刻建築及び圖案の四科課程とす但し建築科課程は追て之を定む

實際を見ず課程表に由て彼此申すは宜しからず。只だ重々殘念なるは、斯る學校を東京府内に設置するの得策ならぬとなり。規則書によれば夏休二ヶ月もあり、只此上は右夏休間に地方逍遙の内則を、設け、教師生徒同道にて行脚せられんとを望む。

○沖繩縣女子教育の景況　同縣にては女子教育の如きは古來全く之を度外に置くの習慣なりしが明治十八年其の筋の勸諭により漸く那覇地方に於て入學する者ありしが本年に至り首里小學校内に女教場を設け島尻地方及宮古島等にも女生徒を募集せしに父兄教育の忽にすべからざるを覺知し續々就學せしむると云ふ天の此の民を生ずる他日郁文の民たらしむる亦知るべからざるなり。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○教鍊校長　米國ラウレンスのシエパード孃はロウエル教練學校の校長に聘され年給(既)一千五百弗を受くるとに成りし由なり。

○英國女子撰擧權議案　本年も亦た同議案の破壞せられたる趣きは百二十八號本欄内に記し置たるとなるが七月廿七日發英國の來信によれば其節下院に於て同議案に賛成議員人數は左の如くなりしと云へり、

下院議院總數三百五十九人の中

保守黨員にして賛成せる者	一七三　人
改進黨にして…………	一〇九　人
分立改進黨にして………	二七　人
愛兒蘭國民黨にして……	五〇　人

○倫敦職工女子の一揆　先頃ろ英國倫敦のイーストエンドに在るブライアント、エンド、メーリ會社と云へる著名のマッチ製造場に使へるゝ工女が同盟罷工を爲したるところ會社に於てはグラスゴーより職工を雇ひ入れ一切元の工女を使うまじきよし觸かしたるにも係へらず工女の爲めに同情を表するもの甚へだ多く中にも倫敦の諸工會と聞ゆたるロンドン、トレーデス、カウンシルよりは委員を發し彼の工女中の委員若干と共に前の會社に至り協議するところあり遂に今后食事は製造所内にて食することとなく別に一室を用意すべき事今后もし不滿足の事あらば組長の手を經ず直ちに會社員へ申出る事等の條約を定め夫にて先ず恙なく治まりたるよしなり。

○ジヨセフヒン、バツトレル夫人の著書　英國の花柳檢査條例廢止の主唱者たるバツトレル夫人は此頃ぜ、ダウン(旭光)と號する雜誌を不定時に刊行し全世界に於て花柳條例もしくは放樓公許などの廢棄するもようを報告さるゝ趣き也、注文は Mr. Y. A. Wheeler 19, The Close, Winchester, England. に宛てゝ申込むべし、十二册二十錢一百册一弗也。

○ベルリン大學と女子　此頃ろ日耳曼皇帝はベルリン大學の紀念肖像の中に一女子の像をも加へ得るとを初めて批准相成たり此の一女子とは即はち數年前に逝去し英大の身代を悉く同大學に寄附して貧窮なる醫學生に自由に勉學するとを得せしめたる伯爵夫人ルイサボースなり。パル、マル、バヂエツト新聞は之を評して云く此ころ即はち獨逸の大學に女子が入校し得たる最初の紀元なりと評し現今マイマルにフラウエンベライン、リホームと云へる婦人會を開き女子にも男子同樣の自由は與ふ可しとの主義を主張する大膽なる女流あれども日耳曼に於ける女子の地位は極めて壓制的なれば扨ては斯くも冷評したるとなるべし。

○印度の女子　印度にても追々と女子保護の注意に行屆くとさ見へ此頃ろカルカツタの警察廳に於て妻を虐待したる廉により罰せられたる土人數人あり中にもマフラツタの王長とて尤も勢力あるホルカーなるものゝ兄弟の如きすら同樣の罪により三ヶ月の懲役若干の罰金を科せられたりと云ふ女光また追々と天竺界に輝き初めんとするの兆あり。

○印度の女史ラマバイ夫人　同夫人は目下ヲレゴン州を遊說中なりと（九月五日ユニオン、シグナル）

○セルヴ井ヤ皇后の入獄　セルヴ井ヤ國王と皇后間の不和に付ては既に數々記載せしが今又た近報に據れば同國にてはイタリヱ皇后の人望最も盛んにして英國のパルマルバゼツト新聞抔にも若し國王ミラン請求通り皇后を離縁するとを得ば恐らく内亂を免かれざるべしと論ぜる程なりと云ふと去る六日の報知新聞に見ねたり。

○米國婦人禁酒會の大會　同會の第十五年會は來る十九日より二十三日迄ニウヨーク府メトロポリタンヲペラ座場に於て開會する由尙當日は米國禁酒黨の總理クリントン、ビイ、フイスク暫爾ニウヨーク婦人禁酒會ノ會頭メリイ、テイ、バート夫人の歡迎演說リニウアモアー夫人の答辭其他有名の女學士の演說等ある由近着のユニオン、シグナル雜誌に見ねたり。

(二三)

小供談

○鳥部野の露

或る可愛らしき子供が、母の指圖に從がつて家を出でたり。時は夏の半ばなり、能くも慣れたる羊一疋足元にもつれ乍ら、麗らかなる日和に淸き野面を行く。兼ねて教へられたる道筋を只だ眞一文字に歩む折から偶と目に着きたるは傍はらの山に咲いたる美しき花なり。見れば見るほど如何にも美しければ、兎も角之を取りて見ばやとの心起りたり。イヤ〳〵母さまは、少しも寄道をせず、たゞ此道を眞直に行けと仰しやりました、止めませう〳〵と思ひ乍らも、又切りに其花が欲しくなりて、思はず彼方に向ひたり。嗚呼見れば見るほど美しゝ、僅か一町半町寄りたりとて左程の害はなかるべしと思ひ、遂に草を分けて彼處の小高き所ろに向ふ。草深くして途は分らず羊は悲しき聲して止めんとすれど、之にも搆はず歩み行きつゝ、早や二三間にて彼の花をと思ふ折柄、アレヨ足踏み外して落入りたる、草にかくれし古井戸に‥‥。アナヤと思へど爲ん方なし、此の愛らしき子供は深き井戸に陥いつたり、早や身を溺らして死せしかと見るとき、幸わひにして思はず手の觸れたるは、井戸側より垂れたる葛の蔓なり。アナうれし此を兩手にて支へつゝ、漸やく氣を靜め、上を見れば十餘間の頂きに、羊は首べを垂れて心配せり、一聲高く叫んで飛び行きたるは、吾が危難を知らせんとて、慣れし吾家に歸りしなるべし。左るにても底は何如ほどに深きぞと見下せば、幾丈とは知らずたゞ深く深し、時に見たるは大なる蛇双眼を怒らせ、血の如き舌を出し、落なば呑んと口を開けり。嗚呼上らんには梯子もなし、只賴むは彼の葛一條なるに、不思儀なる哉黑白二疋の鼠忽然として現はれ出で、代る代る葛の根を嚙んで將に之は絕んとせり。然るに、其目前に最と赤く熟したる莓二つの結りたるを見て、吾知らず片手を離して之を摘んとす。嗚呼愛兒の生命は何如に危うからずや。扨て此子供は助かりしや否やを知らねど、人間は實に之と同じきものなり。神の定め玉ふ道を違ふて、果敢なき花に迷ひ、身を墮落して、地獄に均しき所に罹り、只だ露の間の生命に結ばれて此世に存するとき、而も晝と云ひ夜と云ふ黑白の鼠は、日夜に過ぎ去つて此の生命を短くするをも思はず、尚ほ眼前の衣食に惑はされて赤き實を摘まんとす。蓋し此子の助けらるると否とは、彼の羊が母に知らせて母の迎の來ると否とにある也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

社告

賣捌書店の中にて本社の都合に依り雜誌配達差止め候向きも有之候間斯る場合に於ては購讀せらるゝ諸君は直ちに本社へ御注文被下候樣奉願上候

女學雜誌社

交詢案内

一　催促する勿れ　[illegible]

二〇	一九	七	六		十一
成富 [illegible]	召使 [illegible]	成綾 [illegible]	不公 [illegible]	◉ 雇はれたき方（乙）	◉ 雇ひたき方（甲）　[illegible] 水の光に [illegible]

◉ 文明之母 ◉

毎月十五日發兌（定價九錢　[illegible] 一年分一圓）

吾邦婦人の文明の母たる [illegible] 號愈々十一月十五日に發兌になります [illegible]

社説 發行の**論説** 文明の母に立たるべきものは誰ぞ　中村秋香

家政 家政教育論（中川重麗）

小説 [illegible] 太田忠恕

雜録 [illegible]

文藝 方丈記講義 [illegible] 美妙齋主人

批評 女子教育論〇今世ひめ鑑〇交際

叢報

本誌の價は [illegible] 減じません御承知下さい

發行所 深川區 [illegible] 町十三番地　**生文社**

大賣捌 本郷元富士町二番地　**盛春堂**

忘れました 〇〇

本誌には一等金五圓二等金二圓三等本誌一年分の（懸賞題）が載て居ます

大物賣出し廣告

十月廿二日より

大野屋 [illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社説、佳傳、叢話、及び諸家の論説等あり且其間々の新報を洩なく掲げたるものなれば、有第一號より第百號に至る百冊を御覧あらば即ち一百人の賢婦、烈女の傳記、一百篇の有益なる社説、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡その三年間の女の出來事を悉皆承知するを得べし。之を合して五十餘冊に造るれば大ひなる雜誌となるべし、之を譬ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓となる申しきれぬ質價ならん、時々の浮たる小說、もしくは一二圓の婦人論の書物を讀ませらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候

女學雜誌創刊號より百號迄の内何號にても百冊御購求被成候諸君へは特別割引**金五圓**にて御望の號數取揃へ發送可致候　十冊程欠號出來せり

但し府外は別に郵税一圓申受くべし尤も郵券等に便利なる土地は實費を以て御届け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信じ候

東京々橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

統計局次長世良太一君序（○）統計協會議員呉文聰君序
通今居士横山雅男君著

婚姻論

定價金二十五錢　郵稅十四錢

此の書は通今居士横山雅男君の著にして全編を二十八章に別ち總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晩婚。私婚。血族婚。離婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來弊風の結婚を改良すべきの必要を感ずるの書なり

發兌　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價		
一册。五錢	郵稅。一錢	（但府内無郵稅）
十册。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦人に關する商業會社等の記事を掲ぐるものに限る但し新聞半年分の廣告を注文する者に[illegible]

一行　一回（廿七字詰）前金拾錢
同　二回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引
[illegible]

女學雜誌賣捌所

東京神田區表神保町　東京堂　[illegible]

明治二十一年十月十一日印刷
明治二十一年十月十三日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社說、傳記、叢話、及び諸家の論說等あり且其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば有第一號より第百號に至る百冊を御覽あらば即ち一百人の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社說、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知するとを得べし。之を合して再上に計かるれば大ひなる雜錄となるべし、之を譬ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ買價候はん、時々の浮たる小說、もしくは一二百頁の婦人論の書物を講讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしとの確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候

女學雜誌初號より百號迄の內何號にて御望の號も百冊御購求被成候諸君へは特別割引にて金壹圓にて數取揃へ發送可致候十冊程欠號出來せり

但し府外は別に郵送料一圓申受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御届け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信じ候

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序

通今居士横山雅男君著

婚姻論

定價金三十五錢
郵稅十四錢

此の書は通今居士横山雅男君の著にして全編を二十八章に頒ち總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晚婚。私婚。血族婚。離婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感ずるの書なり

發兌　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價				
一冊。	五錢	郵稅。一錢	(但府内無郵稅)	
十冊。	四十八錢	郵稅。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢	
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢	

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記事を掲ぐるものに限り一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ずる方には雜誌十部の注文を要す以上半頁分に十部の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる物の廣告は引受く女學に關係ある書籍は一部寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町昌々堂○同芝西久保櫻川町萬卷堂○同神田區雉子町園々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新材木町[illegible]明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬[illegible]堂○同本郷區[illegible]町二丁目解明堂○同本郷四丁目文[illegible]萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日[illegible]○京都四條通小橋西へ入[illegible]光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボ[illegible]○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙[illegible]大町木村文助○[illegible]○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手[illegible]一丁目早速社○[illegible]○相州小田原紱[illegible]町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目[illegible]園堂○熊本文明堂

明治二十一年十月十一日印刷
明治二十一年十月十三日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.